

## 国際宇宙探査協働グループ(ISECG)会合の結果について(報告)

平成22(2010)年6月30日  
宇宙航空研究開発機構  
月・惑星探査プログラムグループ

### 1. 報告事項

国際宇宙探査協働グループ(ISECG)の担当部門長による会議が行われたので、その結果について報告する。

### 2. 経緯

- (1) 2008年9月より、ISECGの分科会として有人月探査のアーキテクチャを検討するワーキンググループが構築され、米国のコンステレーション計画を土台としてNASA, JAXA, ESA, CSAを中心としたレファレンスアーキテクチャ(注)の検討が進んでいた。
- (2) 一方で、昨年の米国有人宇宙飛行計画見直しに伴い、今年2月には米国の宇宙探査に関する新しい方針としてコンステレーション計画を中止し、小惑星／火星を有人探査の目的地とする方向が示されたところ。

(注)レファレンスアーキテクチャ: 短期滞在、長期滞在、移動型などの有人月探査ミッションを想定し、それを遂行するためのシステム構成や打上げ順序などをまとめたものであり、今後の国際調整の出発点となる。

### 3. 会議の目的

- (1) 有人月探査に関するレファレンスアーキテクチャ検討結果を確認する。
- (2) 今後のISECGの活動方針、重点的な活動内容について合意する。

### 4. 会議概要

(1) 日時 6月23日(水) 10:00-17:30

(2) 場所 米国メリーランド州ナショナルハーバー ウェスチンホテル

(3) 参加者

NASA(米)	Lori Garver副長官(冒頭のみ)、Doug Cooke探査局長、他10名ほど
JAXA	長谷川統括リーダー、松本、佐藤(以上JSPEC)、上森、菊地(以上ワ駐)
ESA(欧)	Di Pippo有人飛行・探査局長、他5名
CSA(加)	Gilles Leclerc宇宙探査局長、他4名
ASI(伊)	Francesco Svelto微小重力研究部部長、他1名
UKSA(英)	David Parker宇宙科学部部長、他1名
DLR(独)	Rolf Densingプログラム統括、他2名
CNES(仏)	Richard Bonneville宇宙科学プログラム長
CNSA(中国)	Wang Jiacun中国大使館科学技術担当第1書記
KARI(韓)	Eun-Sup Sim宇宙実験部長、他1名
NSAU(ウクライナ)	Ruslan Nimchynskyi在米ウクライナ大使館
ROSCOSMOS(露)	Dmitry Gorobetsヒューストン駐在事務所長

(注)ISRO(インド)、CSIRO(豪)は参加せず。

## 5. 結果概要

(1) これまでのISECG活動結果、有人月探査レファレンスアーキテクチャ検討結果、今後の探査ロードマップ検討・技術評価方針などについてひと通り担当者から報告を受けた後、それらを機関担当部門長レベルで確認する共同声明(Joint Statement)に合意した。共同声明で確認した主要事項は下記の通り。(別添に本文と仮訳を示す)

なお、本共同声明はISECGの事務局であるESAが管理するISECGウェブサイト(公開)に23日付で記載された。

- ISECG活動はこれまで有意義な進展があり、宇宙探査の協力調整進展のために今後活動を強化していくこと。
  - 有人月探査レファレンスアーキテクチャの検討結果
  - 今後、目的地を月のみならず小惑星、火星に拡大してアーキテクチャ検討やクリティカル技術の評価を進めること。
  - Near Termの無人プリカーサミッション及びISSのテストベッドとしての活用に関する早期の国際協力調整が重要であること。
  - 部門長レベルでの確認を適宜行っていくこと。
- (2) 合意された当面の主要な課題
- ISECG活動に関する小冊子を作成し、IACで配布する。(NASA/ESA)
  - 小惑星、火星までを含めたロードマップ、技術評価、プリカーサ、輸送系アーキテクチャを今後の主要議題とする。
  - 今後のISECG会議日程として下記の方角で早急に詰める。
    - ◇ ISECGの進捗状況確認や重要な方向性確認のための担当部門長会議を最大で年2回程度開催していく。
    - ◇ 次回はIACおよびIAAのタイミングで行う。
    - ◇ 2011年6月には担当部門長会議を日本で、2012年はモントリオールで開催する。
  - 目的地や時期などのミッションについての検討の強化。

### (注)ISECGについて

- 米国が世界の宇宙機関に対し国際協力を呼びかけ、2007年に14宇宙機関(日本はJAXA)により国際探査戦略(GES)が合意され、その協働活動の実行組織として、国際宇宙探査協働グループ(ISECG)が設立(インドを除く13宇宙機関が参加)された。
- 国際約束のような強制力を持った作業分担ではなく、各国の独自性を発揮しつつ、全体として整合性のあるプログラムの構想を目指す緩やかな分業が志向されており、主として国際協働の調整の場として活用されている。
- GES合意の14宇宙機関:  
ASI(イタリア宇宙機関)、UKSA(英国宇宙機関)、CNES(フランス国立宇宙研究センター)、CNSA(中国、国家航天局)、CSA(カナダ宇宙庁)、CSIRO(オーストラリア連邦科学産業研究機構)、DLR(ドイツ航空宇宙研究センター)、ESA(欧州宇宙機関)、ISRO(インド宇宙研究機関)、JAXA(宇宙航空研究開発機構)、KARI(韓国航空宇宙研究所)、NASA(米国航空宇宙局)、NSAU(ウクライナ国立宇宙機関)、Roscosmos(ロシア連邦宇宙局)

**Joint Statement  
International Space Exploration Coordination Group  
Senior Agency Management**

**June 23, 2010  
National Harbor, Maryland**

Senior managers representing space agencies in Canada (CSA), China (CNSA), Europe (ASI, CNES, DLR, ESA, UKSA), Japan (JAXA), Korea (KARI), Russia (Roscosmos), Ukraine (NSAU) and the United States (NASA) met at the National Harbor, Maryland, on June 23, 2010, to discuss their interests in globally coordinated human and robotic space exploration. Consensus was reached that significant progress has been made since their joint release of the Global Exploration Strategy (GES) in May 2007 and that steps can and should be taken to enhance their efforts to promote coordination and cooperation to enable a long term space exploration vision that is both sustainable and affordable.

The agency senior managers acknowledged the valuable work of the International Space Exploration Coordination Group (ISECG) -- the GES implementing body -- during the last three years, and welcomed the development of the first ISECG reference architecture, focused on human lunar exploration. They reached consensus on expanding their work to all key exploration destinations and the critical building blocks required to reach these destinations as part of a "global exploration roadmap" -- a key part of an evolving international architecture effort. Senior managers discussed the importance of early dialog focused on near-term opportunities for cooperation, such as robotic precursor missions and utilization of ISS as an exploration test bed. The senior managers agreed on holding further strategic discussions at the senior management level and to review the progress of ISECG as products are developed and delivered.

Last updated June 21

(仮訳)  
共同声明  
国際宇宙探査協働グループ  
機関部門長

2010年6月23日  
メリーランド州ナショナルハーバー

各国の宇宙機関(カナダ(CSA)、中国(CNSA)、ヨーロッパ(ASI, CNES, DLR, ESA, UKSA)、日本(JAXA)、韓国(KARI)、ロシア(ROSCOSMOS)、ウクライナ(NSAU)、米国(NASA))の代表者は、2010年6月23日にメリーランド州ナショナルハーバーに集まり、国際的に調整された有人及び無人の宇宙探査について議論した。その結果、2007年5月の国際探査戦略の共同リリース以降、重要な作業進展があったこと、および持続的で適切な資金範囲で宇宙探査ビジョンを可能にするための国際協力や国際調整をさらに促進することが可能でまたそうすべきであることを確認した。

機関部門長は、GESの実行組織であるISECGのここ3年間の価値ある活動を認め、有人月探査レファレンスアーキテクチャの検討結果を確認した。さらに、機関部門長は、目的地を月のみならず今後は小惑星、火星に拡大し、進化する国際アーキテクチャ検討のキーパーツである国際探査ロードマップの一部としてクリティカル技術の検討を進めることに合意した。また、機関部門長はNear Termの無人プリカーサミッション及びISSのテストベッドとしての活用に関する早期の国際協力調整の重要性についても議論した。ISECGの進捗状況やアウトプットを確認するためにその都度部門長レベルでの確認を行っていくことに合意した。